

人口減少を克服する緊急4カ年計画(R5年度～R8年度)の施策

番号	大項目	中項目	小項目	提 言	優先度
1	施策の立案・実施にあたっての考え方	仕組みづくり	魅力と活力のある自治体の継承について	・次世代を担う若者の声をまちづくりに生かしていくこと。 (活力あるまちづくりを進めるための工夫や仕掛けを考え、積極的に実践していく仕組みをつくる)	○重要課題
		その他の施策	移住・定住者の年間目標設定について	・旧市町村ごとに、将来の人口推計を行い、移住・定住者数の年間目標を設定し、その達成に向けて努力すること。	◎最重要課題
2	しごとづくり	企業誘致	T企業等の誘致について	・旧下毛地域にIT企業等の誘致を推進すること。 ・移住・定住を促進するため、仕事のサポートをすること。	○重要課題
			就農支援の充実化について	・林業や農業で生計が成り立つように施策を講じること。	◎最重要課題
		雇用政策	雇用の促進について	・若年女性(20歳から39歳)が働きたいと感じる魅力的な企業誘致を行うこと。 ・移住定住を促進するには、市内の働く場をセットで取り組むこと。(企業誘致の更なる推進)	◎最重要課題
			移住者の生活スタイルに合わせた働き方のマッチングについて	・仕事の不安の解消をすること。 (スポットで仕事、地域が求めている人材などニーズに対応したマッチングの仕組みづくり) ・仕事の確保に向け人材センター等を設置し、仕事の斡旋・紹介を行うこと。 (起業・副業・就職など幅広くしごとにつながる相談を幅広く受け付けること) ・多種多様なスキルを持っている地域おこし協力隊が多いので、そのスキルを活かせる「場」をつくること。 (「農林水産業」「観光振興」の分野で、暮らし続けられる可能性の提供をすることが大事)	○重要課題
			起業支援の充実について	・新たな起業を支援する体制を作ること。	○重要課題
			空き家バンク制度の充実	・空き家バンク制度を充実すること。 ・移住を促進するため、集落と行政が連携して空き家バンクの登録件数を増やす施策を講じること。 ・居住可能な空家や宅地の寄付採納を積極的に受け入れ、改修した後に賃貸住宅としての貸付け、売却等を実施すること。 ・子育て世帯への「子育て応援住宅」の提供を、期間を決めて低家賃で賃貸すること。 ・そのために空き家バンク登録の家屋の水回り改修を積極的にを行い、市内在住者、移住者問わずに暮らし続けられる環境を作ること。	◎最重要課題
空き家マッチング奨励事業について	・空き家マッチング事業(奨励金など)を積極的にを行うこと。 ・空き家バンクに登録できない理由としてあげられることの多い仏壇の処分等についての情報提供に努めること。	◎最重要課題			
	空き家バンク登録の家屋の改修等について	・空き家バンク登録の家屋の一部改修を行い民間の空きアパート借上など 多くの方に中津の暮らしを試してもらおうようにすること。 ・繁忙期だけ雇用したい事業所のスタッフの滞在場所としても利用できるような考えること。	○重要課題		
3	住まいづくり	居住にかかる支援等の拡充	子育て世帯の住宅取得について	・土地・建物の固定資産税を5年間免除するとともに、住宅ローンフラット35「地域連携型」の活用促進すること。	○重要課題
			子育て世帯のマイホーム取得について	・補助金等の手厚い支援を行うこと。	◎最重要課題
			固定資産税の減免について	・空き家の解体後5年に限り土地の固定資産税の減免を実施すること。	◎最重要課題
			空き家改修および整備に対する補助金の増額について	・現在の不動産屋への委託のみではなく、家主への交渉へも一歩踏み込み、賃貸条件の歩み寄り、定住に向けたイメージがわくようなサイトにすること。 ・アプローチの仕方の工夫すること。	◎最重要課題
		体験ツアーができる環境整備について	・移住希望者に中津の良さを知ってもらうための「里山暮らし体験ツアー」を定期的に開催すること。 ・関係人口を増やすために安価なゲストハウスを確保すること。 ・お試し体験移住ができる環境を整備をすること。(仕事・居住の環境を整えてあげることが必須)	○重要課題	
			・移住希望者に中津の良さを知ってもらうための「里山暮らし体験ツアー」を定期的に開催すること。	○重要課題	
			・関係人口を増やすために安価なゲストハウスを確保すること。	○重要課題	
		住宅確保対策(ハード事業等の実施)	宅地分譲などの施策について	・支所ごとに、安価な子育て世帯向けの市営住宅を建設するとともに、無償の宅地分譲を行うこと。 ・定住促進のための分譲地造成を行うこと。 ・公有地を子育て世帯の住宅用地として無償提供または安価で販売し、定住に繋げること。	○重要課題
			市営住宅などの新しい取り組みについて	・旧下毛に新たな住宅の建設を検討すること。(安全な場所へ市営住宅の建築など) ・条件付き(所得制限と居住年数など)「借上げ市営住宅(戸建て)」の取り組みなどの検討すること。	○重要課題
		人的サポートの充実	地域おこし協力隊の活動について	・与えられた任務の出来高による評価を行い、退任後の定住に繋がる任務以外の活動が自由にできるように配慮すること。 ・福祉など広範な分野の募集を行うこと。	○重要課題
			専従できる体制づくりについて	・プロジェクト課を作り、兼用業務ではなく担当が目標に向かって責任を持って進めること。(危機感をもって行う) (移住者、移住希望者等の担当課を確立し子育て・働く場所・自然環境それぞれが単独ではなくトータルで市に魅力を持たせることが重要) ・地域おこし協力隊、移住支援なかつの動きがとりやすい環境を作ること。 (資金面の支援と、業務を多様化せず専従で行える環境を作る。各地区、移住支援に特化した地域おこし協力隊の募集など) ・各支所の移住定住に特化した地域おこし協力隊の配置の検討など行うこと。	◎最重要課題
			移住支援なかつをしっかりと組織化及び支援体制の充実について	・市が手厚くバックアップをし、行政・地域おこし協力隊・移住支援なかつのとの連携で、地域住民と移住者を繋げるパイプ役を行うこと。 ・地域は旧下毛に限らず行うべき。	◎最重要課題
移住コーディネーターの育成について	・移住を決心するまでの間、親身にやり取りしてもらえるコーディネーター育成し移住後も相談できる環境をつくること。		○重要課題		
移住定住担当のスペシャリストの育成について	・移住を考えている方への後押しをし、移住してからの様々な不安解消など、コミュニケーションを図ること。 (親身になって相談できる体制づくり)		○重要課題		
・専従できる体制づくりについて	・地域おこし協力隊、移住支援なかつの動きがとりやすい環境を作ること。 (資金面の支援と、業務を多様化せず専従で行える環境を作る。各地区、移住支援に特化した地域おこし協力隊の募集など)		◎最重要課題		

人口減少を克服する緊急4カ年計画(R5年度～R8年度)の施策

番号	大項目	中項目	小項目	提 言	優先度
4	移動支援	移動手段の確保	日常生活（買物、通院等）の移動手段の確保について	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者との連携による多様な交通手段の活用により効果的な対策の検討すること。 ・デマンドタクシーを導入すること。 	◎最重要課題
			遠距離通学を支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの運行や交通機関利用料を無料とすること。 	
5	婚活支援	マッチング支援	マッチングしてくれるボランティアの募集について	<ul style="list-style-type: none"> ・出会いサポーター（ボランティア）の募集。 ・ボランティアを市に登録してもらい、婚活対象者の中で担当を決めて直接的な働きかけを行うこと。 	◎最重要課題
			マッチング窓口の常設について	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチング相談窓口（常設）の設置。 	
6	まなびの支援	教育環境の充実	こども支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども医療費の無料化や学校給食の無償化、奨学金返済支援、移住時の補助、子ども3人以上の家庭への補助などを具体化して行くこと。 	○重要課題
			若者Uターンをターゲットとした教育支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高生（特に高校生）対象の公営塾の設置を行うこと。 	○重要課題
			Uターン移住奨励金の支給について	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てを手伝ってくれる人がいる環境（実家）必要。女子ターンや家族連れの移住奨励金の支給をするよう検討すること。 ・県外に居住している単身女性が定住を目的に本市に転入する際の女子ターン奨励金をつくること。 	○重要課題
			子育てサポートについて	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠出産後も働き続けたいニーズに応えるためのサポート体制を整えること。 	○重要課題
7	コミュニティづくり	地域環境の充実	地域コミュニティの維持（構築）について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民とのコミュニケーションの場を多くすること。（具体例として地域の集まりごとや祭り・集いごとに参加する機会を作る等） 	◎最重要課題
			地域住民の受け入れ体制の強化及びコミュニケーションの場づくりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の応援の多さが定住につながる。受け入れる側のマインドや勉強の検討を行うこと。 ・行政、地域おこし協力隊、移住支援なかつの方々連携し、地域住民と移住者を繋げる役割を行うこと。 	◎最重要課題
			旧下毛地域の暮らしなど充実した生活環境を求める政策について	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎地域の医療を確保するため市直営の診療所を存続させること。 ・中津日田高規格道路IC周辺の地域住みやすい環境整備や道路整備を行うこと。 	◎最重要課題
8	情報発信	情報発信の強化	魅力の情報発信について	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財・観光資源の洗い出し、PRの仕方の工夫をして情報発信に努めること。（他市との情報発信力の差がある） ・中津市の魅力（自然、食の豊富さ、立地の利便性など）や豊富な資源が伝わるような広報、発信を行うとともにふるさと教育を徹底すること。 ・移住者がどのようなことに感じて定住したかをリサーチし、「仕事」「住まい」「暮らし」等の情報を発信する移住ポータルサイトにて分かりやすく発信すること。 （移住定住促進のためのワンストップ窓口の設置等、移住定住に関する総合的な情報発信や各種支援に取り組みを行う） 	○重要課題